

ケス (1969)

KES

メディア 映画
ジャンル 青春 ドラマ
製作国 イギリス
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1996/05/18
公開情報 シネカノン

【解説】

「夜空に星のあるように」で映画界入りしたイギリスのテレビ演出家K・ローチの初期代表作。日本では「少年と鷹」のタイトルでTV放映されたただけだったが、ローチ再評価の機運に合わせて製作より27年経った96年に劇場初公開された。

ヨークシャー地方の寂れた炭鉱町に住むビリー・キャスパーは年の離れた兄とケンカが絶えず、学校でもあまりぱっとしない地味な少年。彼は修道院跡の崖に鷹の巣がある事を発見し、巣からヒナを持ち帰る。ビリーはその鷹をケスと名付け、懸命に飼育する。読み書きも苦手だったが、ケスを育てるために必要であれば難しい本も読むようになった。ケスの調教は日ごとに成果を見せ、授業でその話をする先生やクラスメイトのビリーを見る目も変わってきた。そんなある日、ビリーは馬券を買うように兄から渡されたお金を使いこんでしまうのだが、それが当り馬券だった事から悲劇が起きてしまう……。

こうストーリーを書くと、よくある少年と動物の交流を描いたファミリー作品のような印象を受けそうであるが、この映画はそんな枠は遥に陵駕している。田舎町や教室の日常風景（サッカーのくだりは今思い返しても頬がゆるむ愉快的シーンだ）、鬱蒼とした森や草原の輝き、そして青い空、その驚くべき日常感覚とリアリティには息を吞まずにいられない。奇をてらわない真っ直ぐな作者の視線は実に心地よく、また辛辣でもある。ここにはハリウッド映画が絶対触れることのない、少年期の真実と動物との果たせぬ交流が克明に刻まれているのだ。主人公ビリーに扮したD・ブラッドレイの哀しくもしたたかな表情、それがこの映画のシンボルだ。

【クレジット】

監督	ケネス・ローチ	Kenneth Loach	
製作	トニー・ガーネット	Tony Garnett	
原作	バリー・ハインズ	Barry Hines	
脚本	ケネス・ローチ	Kenneth Loach	
	バリー・ハインズ	Barry Hines	
	トニー・ガーネット	Tony Garnett	
撮影	クリス・メンゲス	Chris Menges	
編集	ロイ・ワッツ	Roy Watts	
音楽	ジョン・キャメロン	John Cameron	
出演	デヴィッド・ブラッドレイ	David Bradley	ビリー・キャスパー
	リン・ペリー	Lynne Perrie	キャスパー夫人
	コリン・ウェランド	Colin Welland	ファーシング先生
	フレディ・フレッチャー	Freddie Fletcher	ジャド・キャスパー